

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2026年 2026～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

ア 会議等

（ア）これまでの取組

a 地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会

地方独立行政法人法及び地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会条例の規定により、地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴くことが求められているため、中期目標・中期計画の構成案について、評価委員会から意見を聴取した。

【日時】令和6年8月2日開催（第1回委員会）

【構成員】枝広 直幹（福山市長）、
大石 佳能子（株式会社メディアヴァ代表取締役社長）、
木倉 敬之（全国健康保険協会理事）、
平谷 優子（ひかり総合法律事務所弁護士）、

松田 淳 (KPMG ヘルスケアジャパン株式会社代表取締役)、
 松村 誠 (広島県医師会会長)
 山本 恭子 (広島県看護協会会長)

【主な議題】・中期目標・中期計画（構成案）について

【主な意見】

区分	内容
再編・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に見ても非常に意欲的な取組である。高齢化など人口動態の変化、医療の高度化、インフレによる設備投資の高騰等、医療を取り巻く環境は厳しくなっており、このような再編・統合の取組なくしては、これからの医療は存続できない。 ・文化が違う組織を一体化しながら、どのようにして医療機能の高度化、効率化していくのか考える必要がある。 ・建て替えを伴う病院の事業計画においては、建物建設に目がいきがちだが、より重要なのは、医療提供体制や病院の運営、さらには患者の動向であり、人員体制や運用などを具体的に計画立てていく必要がある。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・再編・統合対象病院以外の医療機関の機能にも影響を与えることから、地域の医療機関との連携関係を描いていくことも重要。 ・DXについては、院内だけでなく、院外との連携の視点が必要。 ・県立病院は、現在も安芸津病院における訪問看護・介護など地域に貢献する医療を提供しており、引き続き地域の介護施設やケアマネジャーと情報を共有し、地域の医療支援とそれを担う人材育成の役割を担ってほしい。 ・広島県は全国平均よりも高齢化が進む地域なので、福祉との連携を強く意識する必要がある。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成は短期的に成果が出るものではないため、5年10年先を視野に入れた取組の目標値を示すことが必要。

b 県民公開セミナー

高度医療・人材育成拠点基本計画について、県民の理解促進及び機運醸成を図るため、医療再編や新病院に関連するテーマに基づき、大学講師等の講演やパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

【日時】令和6年8月4日（日）13時～16時開催

【会場】広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里3丁目2番3号）

【主催】広島県／【共催】一般社団法人広島県医師会、株式会社中国新聞社

【内容】※ Web 視聴可（YouTube 配信）

テーマ	これからの高齢者医療 ～「治す」から「癒す・支える」医療へ～
県の取組説明	渡部 滋 (広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長)
基調講演	板本 敏行 (県立広島病院 院長)
講演	大下 智彦 (呉医療センター脳神経内科 科長) 小田 登 (広島大学病院循環器内科 講師) 庄司 剛士 (広島大学大学院人工関節・生体材料学 助教) 大森 慶太郎 (広島大学病院感染症科 診療講師) 上田 貴代 (厚生労働省 老人保健課 高齢者リハビリテーション推進官)

パネルディスカッション	総合司会：古川 善也（広島赤十字・原爆病院 病院長） パネリスト：各講演者
参加人数	299名（会場197名・web102名）

※敬称略

【主な質問と回答】

質問	回答
高齢者がよくかかる病気にならないよう、どうしたら正しい知識を得ることができるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医の学会やこの県民公開セミナーのように公的な機関が発信する信頼できる情報や機会を捉えること、そしてその情報を取捨選択するリテラシーが大切である。 ・自分で健康状態を判断するのではなく、各病院の総合窓口やかかりつけ医への相談をすることが、正しい医療知識を得ることに繋がる。
普段の生活でどのような対策や心がけをすれば良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活ではフレイルに陥らないよう、「栄養」「運動」「社会参加」の3本柱で健康寿命をできるだけ長く保って老後を過ごすことを心がけて欲しい。

<セミナーホームページ>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten-seminar2024-1st.html>

(※県民公開セミナーにおける講演や新病院に関する県からの説明動画、県民からの質疑応答などを掲載)



c 地域医療体制確保検討会議

高度医療・人材育成拠点基本計画に位置づける「地域医療体制の確保」に向けて、医師配置・循環の仕組みや地域医療ネットワークの構築等について検討を行った。

【日時】令和6年8月5日開催

【構成員】広島大学・広島大学病院、広島県医師会、北広島町雄鹿原診療所、備北メディカルネットワーク、広島県北西部地域医療連携センター

【主な議題】・医師配置検討委員会（仮称）の機能・役割等について

【主な意見】

区分	内容
医師配置・循環の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・枠組みは概ね良い。大学内の人事権者間の情報共有が可能となる点や県(自治医)との調整が可能になる点は大変良いことである。 ・症例が少ない医療機関に医師を直接派遣するのは難しい。ある程度症例があり、指導医がいる基幹病院から週1回程度派遣する仕組みが現実的だ。 ・拠点病院に医師が集まり、そこから地域の中小機関へ行く形がよいと思うが、拠点となる病院については整理が必要だ。 ・医師の配置は、専門医の取得など、医師のキャリア構築の観点から、5年、10年先を見据えて行っておりそこに医師配置の難しさがある。 ・仕組みに関して、若手医師への分かりやすい発信方法も考える必要がある。

d 新病院開設準備委員会

新病院の開院に向けて、高度医療・人材育成拠点基本計画を具体化するため、病院の設計や医療機能、人材育成の方針等の検討を行った。

【日時】 令和6年8月30日開催（第3回委員会）

【構成員】 県立広島病院、JR広島病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター、広島大学病院、府中市、安芸太田町、広島市、広島県

【主な議題】 ・広島都市圏の基幹病院の役割分担について

・新病院の設計の考え方について

・地方独立行政法人の中期目標案・中期計画案について

【主な意見】

区分	内容
医療機能・運営	<ul style="list-style-type: none"> 急性期における医療でも、リハビリテーションや栄養管理、口腔ケアが重視されている。医師、看護師以外の医療スタッフの活用についてさらに検討を進めるべき。 建築費の高騰により、全国で医療機関や街づくりがストップしているケースが見受けられる。本計画においても、運営計画を常にブラッシュアップしていくべき。 医療機関の場所が変わることで、地域全体で救急患者の搬送がどのように変化していくのかを想定する必要がある。 新病院での活躍が期待される病院総合医、いわゆるホスピタリストは、内科や外科を出自とする総合診療医もリクルートの対象とすることで、確保しやすくなるのではないかと。
設計	<ul style="list-style-type: none"> 導入が予定されている搬送用のロボットについては、エレベーターに人と同乗するのではなく、専用のエレベーターを整備することで、業務効率化につながる。 災害時のトリアージスペースや感染症に対する病棟の在り方、また電気水道等ライフラインの確保について検討を行うことも重要だ。
中期目標・中期計画	<ul style="list-style-type: none"> 新病院には診療を支える間接的な機能や、地域の医療体制を維持する人材を確保する機能も求められている。医療政策の観点からの役割についても盛り込むべき。

(イ) 今後実施するもの

a 県民公開セミナー

令和6年11月17日開催 高度医療・人材育成拠点（新病院）県民公開セミナーについて8月に引き続き、「地域医療」をテーマとしてセミナーを開催する。

【日時】 令和6年11月17日（日）13時～16時開催予定

【会場】 広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里3丁目2番3号）

【内容】 ※ Web 視聴可（YouTube 配信）

テーマ	これからの地域医療と新病院
県の取組説明	渡部 滋（広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長）

基調講演	松村 誠 (一般社団法人広島県医師会 会長)
講演	岡本 健志 (県立広島病院 総合診療科・感染症科 部長) 伊藤 公訓 (広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授) 中西 敏夫 (地域医療連携推進法人 備北メディカルネットワーク 代表理事) 藤井 温 (因島医師会病院 病院長) 松本 正俊 (広島大学医学部地域医療システム学 教授)
パネルディスカッション	総合司会 : 粟井 和夫 (広島大学病院 放射線診断科 教授) 田中 美千子 (中国新聞編集委員室) パネリスト : 各講演者

※敬称略

【申込方法】(会場参加のみ、Web 視聴は申込不要) (9/12 (木) 11:00 公開予定)

https://apply.e-tumo.jp/pref-hiroshima-u/offer/offerList_detail?tempSeq=19865

県ホームページ(県民公開セミナー)掲載の申込フォーム又はFAXから申込みが可能。参合わせて質問・意見を受け付ける。



イ その他

(ア) 交通量調査

新病院の開院へ向けて周辺道路や既存交差点への影響を検証するため、昨年度に引き続き2回目の交通量調査を実施した。

【調査日】令和6年7月10日(水)(参考:前回調査 令和5年4月26日(水))

【調査位置】来退院の想定ルート上に位置する10交差点(新幹線口(西)交差点ほか)

【調査結果】昨年度と同様に、一部の交差点において信号時間の調整を要するものの、いずれの交差点においても問題ない状況であった。

(新幹線口(西)交差点:交差点需要率:0.802、方向別交通容量比:1.135)

【今後の方針】今後も適時調査し交通実態を把握するとともに、関係機関とも連携を図り周辺交通への影響を最小限に抑えるよう努める。

(※1) 交差点需要率

交差点需要率とは、単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率のこと。一般的に信号制御による損失を考慮した概ね0.9(詳細は交差点毎に計算)が円滑な交通処理が出来る判断基準とされている。

(※2) 方向別交通容量比

交通容量比とは、各車線の混雑の度合いを把握するための指標のこと。

交通容量比 = 流入交通量 A / 可能交通容量 B

流入交通量 A : 実際に交差点に流入する交通量

可能交通容量 B : 各車線毎の道路条件及び交通条件で通過できる交通量(理論値)

交通容量比が1.0以上の場合、交差点を通過するために複数回の信号待ちが生じる可能性がある。

(3) 予算額(一部国庫)

令和6年度当初予算額 1,218,107千円(債務負担行為額 19,919,000千円)

(4) その他(広島県HP掲載)

ア 高度医療・人材育成拠点の整備について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

(※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載)

